

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三室小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語ではどの学年も漢字の正答率が低い項目があったため、繰り返し練習できるようにしていく。また、毎年出題される主語と述語に関する問題もなかなか正答率が上がらないため、毎年継続的に指導する必要がある。算数に関しては基本的な計算問題は正答率が上がっているが、図形に対して苦手意識のある児童が多い傾向にあるため、授業の中で興味関心をもって学習できるような指導方法を研究していきたい。
思考・判断・表現	国語・算数ともに、学年ごとに差が見られた。4・6年生は市平均よりも低く、3・5年生は市平均よりも高かった。各教科の正答率も同じような結果であった。来年度は、ICTを効果的に活用し、どの教科でも普段の授業からじっくりと考える時間を設け、情報を活用したり、自分の言葉で表現する力を身に付けていくことができるよう、授業改善を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	前年度よりも「国語の勉強が好き」と回答する児童が全学年で増えていた。一方で「算数の勉強が好き」と答える児童が全体的に減っており、残念な結果となった。正答率が低い学年でも肯定的に回答する児童が多く、正答率が高くても非肯定的な回答が多い学年もあったことから、正答率と「好き」は比例しないことが分かった。高学年では肯定的な回答が増えたことから教科担任制が「主体的に学習に取り組む態度」により影響を与えていると考えられる。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の「国語」「算数」の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果よりも全学年の正答率を1p以上向上させる。	⇒ 学校課題研究での授業改善の取組を継続するとともに、ICTを積極的に活用し、練習問題に取り組む時間を意図的に設ける。児童一人ひとりの習熟の度合いを的確に把握して個に応じた指導に取り組む。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の「国語」「算数」の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校の結果よりも全学年の正答率を1p以上向上させる。	⇒ ICTを活用し、思考を可視化したり、互いに考えを深めあえるような「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を行ったりすることで、思考力を高めしていく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の【生活に関する調査】「学びに向かう力」の項目で「国語」「算数」に関するものの肯定的な回答の割合を1p以上向上させる。	⇒ 児童が自ら課題を設定して主体的に活動したり、表現したりできる時間を確保し、自ら解決することによる成就感を味わうことができる授業を行う。児童の興味関心を生かした多様な学びの機会を設定する。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5さいたま市学習状況調査の国語「知識・技能」の正答率をR4と比較すると、3年生+8.8pt、4年生-16.7pt、5年生+6.6pt、6年生-9.8ptであった。算数は、3年生+10.9pt、4年生+1pt、5年生-0.4pt、6年生-8.8ptであった。R4の問題とR5の問題を比較すると難易度や市平均正答率にも差があり、正答率での比較は難しいと感じた。	B
思考・判断・表現	R5さいたま市学習状況調査の国語「思考・判断・表現」の正答率をR4と比較すると、3年生+9.1pt、4年生+0.9pt、5年生+0.2pt、6年生-0.5ptであった。算数は、3年生+14.9pt、4年生-15.9pt、5年生-3.8pt、6年生-6.5ptであった。国語同様、年度ごとに問題の難易度や平均も異なり、比較するのは困難であった。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の【生活に関する調査】「学びに向かう力」の項目で「国語の勉強は好きですか」の質問に関する肯定的な回答の割合は10pt以上アップしていたが、「算数」に関しての肯定的な回答の割合は低くなっていた。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+2pt、算数-3ptであった。国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」においてR4年度よりも+3ptであった。算数では、「百分率で表された割合」についての正答率が低かった。
思考・判断・表現	「思考・判断・表現」においてR4年度の自校の結果と比較し、国語+4、算数-7であった。国語は「読むこと」の正答率が低かったが、記述式の正答率は高かった。算数は「比例の関係」「加法と乗法の混合した式」に関する問題の正答率が低かった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「国語の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、前年度に比べて+22pt、「算数」は-4ptであった。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対する肯定的な回答は前年度に比べて+5ptであった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語は「書くこと」「読むこと」の問題に対する正答率が高かった。一方で主語と述語の関係を理解できていなかったり、漢字を文章の中で正しく使うことができなかったりすることが分かった。算数では全ての問題で市平均よりも正答率が高く、特に図形(四角形の定義・立方体の構成・円の中心、直径、半径の定義)に対する正答率が高かった。	小4	国語は同音異字や主語・述語の関係を問う問題の正答率が低かった。「書くこと」「読むこと」の正答率も低かったが、「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が高かった。算数では、全ての領域で市平均よりも正答率が低かった。特に小数の減法、3位数÷1位数の計算問題を確実に解くことができるように基礎・基本的な内容の定着を図る必要がある。
小5	国語は「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する問題の正答率が高かった。主語と述語は問題によって正答率に差が見られた。算数は「図形」の問題で市平均正答率よりも低かったが、他は市平均と同じ正答率であった。社会と理科については昨年度までの既習事項の内容は正答率が低かったが今年度の学習内容については正答率が高かった。	小6	国語は全ての項目で市平均正答率よりも低く、特に漢字や「話すこと・聞くこと」に関する正答率が低かった。算数も全ての領域で市平均正答率よりも低かったが、小数の減法や分数の乗法、角柱の体積を求める問題では正答率が高かった。社会は「歴史と人々の生活」など今年度の学習内容の正答率が低かった。理科は全ての領域で市平均正答率よりも高かった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 算数の知識・技能の正答率が低かったため、授業中に習熟の時間や、繰り返し復習を行う時間を確実に設けるなどの対策を行っていく。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 三室小スタンダードの自力解決→協働→練り上げを大切に行う。ヒントカードを使用するなど、積極的に個別指導を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 意欲を高め、個別に課題に取り組むことができるように積極的にICTを活用していく。